

鹿屋市立笠野原小学校 令和2年度のNIE取組について

1 本校 NIE 教育の目標

「新聞を読み取り、情報を生かす力・社会とつながる力を育てる」

2 各学年の努力点

低学年	中学年	高学年
○ 新聞がどのような紙面になっているのかを見る。	○ 調べ学習や文章に表すための資料として新聞を使うことで、表現力を育てる。	○ 記事の読み比べや友達との意見交流を通して、思考力・判断力を身に付ける。
○ 各種活動において子ども新聞の写真や図を使うことで新聞に親しむ。	○ 教科で調べたことを新聞形式にまとめることにより構成力を身に付ける。	○ 新聞をもとにした発表資料を作り、構成力・判断力を身に付ける。

3 学校全体での取組

(1) 年度初めの共通理解・職員研修

年度初めに教育課程をもとに全体計画を確認した。担当がこれまでの実践例を紹介し、各学年で実践する内容を設定した。6月には職員研修を実施して、NIEの目的や実践の進め方を確認した。

(2) NIE コーナーの設置

水道前の壁と校長室前と図書室に設置。「オセモコ」「紹介記事」「新聞に掲載された児童の作品」等を掲示した。休み時間や給食の片付けの時などに、子どもたちが友達と一っしょに記事を読んでいる。



職員研修



校長室・教室前の掲示



新聞閲覧コーナー

(3) 委員会活動での取組（放送委員会）

ア 委員会活動の時間に、「みやこ先生のアナウンス教室」の動画を視聴して新聞音読を行う。

イ 南日本新聞の記事や「オセモコ」の中から自分が興味をもった記事を選び、朝の校内放送で記事の音読と感想の発表を行う。

(4) ファミリーフォーカス

週末の課題等でファミリーフォーカスを実施した。書いたものは廊下に掲示して、クラスの友達がいつでも見ることができるようにした。

(5) 担任による新聞記事紹介

定期購読している新聞を計画的に各学級に配布し、担任が朝の会等で記事紹介を行った。



新聞音読



朝の時間の放送



朝の読書で新聞を読む

(6) 新聞社への作品投稿、コンクールへの参加

南日本新聞「ひろば」「子どものうた」「オセモコ」へ作品を投稿した。4年生以上は「よむのびコンクール」に取り組み、4年生 51点、5年生 44点、6年生 55点の合計 150点を出品した。2席・販売所長賞・特別賞など9名が個人賞を受賞した。

(7) 保護者への啓発

学級 PTA 資料で、親子の付き合い方や情報端末機器などに関する記事を紹介した。

4 各学年の授業実践 〈各学年担任に配布した実践例〉（5・6年）

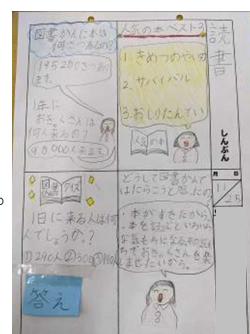
【5年】	
教科	実践内容
総合	「今日のヒーロー」 ・ 新聞からヒーローを見つけ、記事の内容や感想を書かせる。
国語	「和語・漢語・外来語」 ・ 新聞の中から「和語・漢語・外来語」を見つけ、どのような状況で使われているかを考える。
国語	同じ日の各社の新聞記事を読み比べる。 見出しを隠した新聞記事を読み、ふざかしい見出しを考える。
【6年】	
教科	実践内容
朝の会 帰りの会	・ 気になる記事を選び、日直がスピーチする。 ・ 新聞を読んでクイズを作り、日直が1日3問出題する。
国語	「自分の考えを明確に伝えよう」 ・ 「ひろば欄」の投稿作品を用いて、事実と意見の分量の違い、文末表現に気付かせる。
国語	「熟語の成り立ち」 ・ 新聞の中で使われている熟語を見つける。
国語	「学級討論会をしよう」 ・ 新聞から議題を決めて、学級討論会をする。
体育	「体の使い方を知ろう」 ・ スポーツ選手の写真を見て、正しい体の使い方を発見する。 (野球選手が投げるところ、走り幅跳び、ハードルなど)

授業実践 1年 国語科

- ☐ 単元 しんぶんをつかって
- ☐ 目標 新聞に掲載されている写真を見て、興味があるものを選び、感想をもつことができる。
- ☐ 事前 児童が興味をもつような写真を紹介し、意欲をもたせる。
- ☐ 本時の流れ（1／1時間目）
 - (1) 新聞記事（写真）を紹介する。
 - (2) 感想を聞く。
 - (3) 親子で新聞を見ながら、興味をもった写真を見つける。
 - (4) 保護者に読んでもらう。
 - (5) 感想を書く。
 - (6) 感想をグループで、発表し合う。
- ☐ 事後 親子で、新聞の写真を見たり読んだりすることで、さらに興味を深めてもらう。
- ☐ 成果と課題
 - 保護者と一緒に新聞に触れてもらうことで、関心をもつことができた。
 - 友達と感想を交流することで、新聞のいろいろな写真や記事を知ることができた。
 - ▲ 各家庭の新聞購読状況を把握することが難しかった。
 - ▲ 初めての取り組みで、とまどった子どもたちもいた。1年生でも何か継続的に実践できることを、保護者と連携して取り組んでいく必要がある。

授業実践 2年 生活科

- ☐ 単元 図書かんをたんけんしよう
- ☐ 目標 地域の公共施設である図書館を調べたり、見学したりすることを通して、まちの多くの人が利用することや、それを支える人たちがいることに気付き、自分たちも使ってみようという意欲を高められるようにする。
- ☐ 学習の流れ
 - (1) 図書館で調べたいことや質問を考える。
 - (2) 図書館で、実際に調べたり質問したりする。
 - (3) 新聞を広げ、レイアウトなど新聞の書き方を調べる。
 - (4) 図書館を探検して分かったことや気付いたことを、新聞にまとめる。
 - (5) 新聞を、友達と交換して読み合う。
- ☐ 成果と課題
 - 新聞に興味をもち、新聞を広げる子が出てきた。
 - 新聞にまとめる活動を楽しみ、意欲的に活動していた。
 - ▲ 漢字や言葉の意味が分からないことで、新聞に興味を示さない子もいた。難しい言葉等について調べさせる等の手立てをとりたい。
 - ▲ 分かりやすくまとめることが難しいと感じる子がいた。



授業実践 3年 社会科

□ 単元 工場ではたらく人と仕事

- 目標 (1) 地域の産業の様子を、地域の人々の生活との関わりを踏まえて理解するとともに、写真、地図などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識・技能)
- (2) 地域の産業の特色や意味、地域の人々との生活との関連を考える力や、考えたことを表現する力を養う。(思考・表現・判断)
- (3) 学習問題を追求・解決するために、地域の産業の様子について意欲的に調べ、特色や相互の関連、意味について粘り強く考えたり、調べたことや考えたことを表現しようとしたりする主体的な学習態度を養う。
- (主体的に学習に取り組む態度)

□ 事前 担任による朝の会等での新聞紹介

□ 本時の流れ(1/7時間目)

- (1) 鹿児島の名物について知っていることを発表し合う。
- (2) 鹿児島の名物である焼酎について、焼酎瓶の実物を見て関心をもつ。
- (3) 鹿児島県の焼酎の出荷量に関する新聞記事や都道府県ごとの焼酎を購入するのにかった費用に関するグラフを調べる。
- (4) 焼酎が地域の人に親しまれており、焼酎が鹿児島の名物であることを理解する。

□ 事後 焼酎造りについてもっと知りたいことを考え、次時の学習計画作成につなげる。

□ 成果と課題

- 新聞記事の小見出しは、記事の要旨が端的にまとめられており、文字が強調されている(大きい、太い、濃い)ため、児童に資料のどこを見ればよいのか指示しやすかった。児童もすぐに見つけることができた。

- ▲ 小学生にとって読めない漢字や意味が分からない言葉が使用されていることもあるので、学年や学級の実態に応じて使用する必要がある。

授業実践 4年 国語科

□ 単元 筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう

「アップとルーズで伝える」

□ 目標 新聞の中からアップとルーズの写真を選び、その写真が使われている理由を考えることができる。

□ 事前 教材文を読み、アップとルーズの写真の特徴や使われ方を知る。

□ 本時の流れ(6/8時間目)

- (1) アップとルーズの写真の特徴や使われ方を確認する。
- (2) 新聞の中から、アップとルーズの写真を選び、その写真のことが書いてある記事を読む。
- (3) 2枚の写真を切り取ってワークシートに貼る。
- (4) アップとルーズの写真が使われている理由を考えてワークシートに書く。



□ 事後 ワークシートに書いたことを、グループや学級全体で共有する。教材文の構成と新聞での写真の使われ方について学んだことをふり返る。

□ 成果と課題

- 新聞にあるアップとルーズの特徴を知ることによって、写真を用いた説明方法を学んだ。
- 教材文に書いているアップとルーズの特徴をふり返りながら、新聞記事の写真を選んでいる姿が見られた。

- ▲ 新聞記事を読んだ後に、その写真を使った理由を考えて書くことが難しいと感じる児童がいた。写真を選んで理由を書かせる前に学び合いの場を設定したほうがよかった。

授業実践 5年 国語科

- ☐ 新聞を読もう
- ☐ 目標 目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。
- ☐ 事前 興味深い記事や心に残った写真等を新聞等の中から探し、新聞に興味を持たせる。
- ☐ 本時の流れ（2／3）
 - (1) 2つの新聞の写真・見出しを比べ、気づいたことを話し合う。
 - (2) それぞれの記事に対応する本文を音読する。
 - (3) 2つの記事を比べて読み、書かれている内容や受ける印象の違いを考える。
 - (4) 新聞を読む学習を通して考えたことや感じたことを発表する。
- ☐ 事後 学級N I Eコーナーに2つの新聞記事を掲示し、読み比べる。
- ☐ 成果と課題
 - 新聞に対する興味が高まり、意欲的に新聞を読もうとする児童が増えた。
 - 報告文を書く際なども、より客観的で伝わりやすい文を考えられるようになった。
 - ▲ 音読や漢字の読み取りが難しい児童は、新聞への抵抗があった。

授業実践 6年 国語科

- ☐ 単元 日本文化を発信しよう
- ☐ 目標 新聞の見出し、小見出し、リード文、割り付けを参考にして、パンフレットを作る。
- ☐ 事前 集めた情報を整理して、パンフレットの構成を決め、誰がどのページを書くか分担を決める。
- ☐ 本時の流れ（5／7時間目）
 - (1) 新聞を読んで、見出し、小見出し、リード文はどこにあたるかを確認する。
 - (2) 最も伝えたいことは何かを明確にし、絵や写真とのバランスを考えて割り付けを工夫したり、読者を意識した見出しや小見出し、リード文などを書いたりする。
 - (3) 教科書の文章構成の例を参考にして、下書きをする。
- ☐ 事後 班ごとに作ったパンフレットを読み合い、工夫が見られた点など感想を交流し合う。
- ☐ 成果と課題
 - 新聞を活用したことでイメージが湧き、割り付けしたり、見出しや小見出し、リード文などを書いたりすることができた。
 - ▲ 新聞を活用したことでイメージはしやすかったが、割り付けを工夫したり、読者を意識した見出しや小見出し、リード文などを書いたりすることには個人差があった。

5 成果と課題

(1) 成果

- ア 年間を通して新聞を購入していただいたので、世の中で起きたばかりの出来事についての記事を紹介したり、授業で取り扱ったりできた。
- イ 学校内で新聞にふれる機会が増え、日常の会話や日記等で、児童の方から時事に関する話題が出るようになった。
- ウ 6月に職員研修を行うことにより、N I Eの概要、各学年の実践例などを確認したうえで、1年間の取組を実施できた。
- エ 国語科や社会科など、学習指導要領の指導事項に基づいて、効果的に新聞を活用できた。委員会活動でも、活動の目的に沿って活用できた。

(2) 課題

- ア 児童がさらに新聞を身近に感じて、学んだことをふり返ることができるように、全学年で共通したN I Eコーナーを設置する必要がある。
- イ 職員研修で教育活動全体を通した新聞活用法について話し合い、実践例を増やすとともに、次年度以降も同じように実践できるように引き継ぐ必要がある。